

校長室だより 「伸びゆく梢」

文責 柴田町立船迫中学校 校長 三浦 道子

1学期に予定していた行事が順調に実施できていることに安堵しています。これも保護者の皆様、地域の皆様のご支援とご理解のお陰と感謝しております。昨年はコロナ禍での授業確保のため、夏休みも短縮されましたが、今年度は例年通りの夏休みとなる予定です。ご家族で過ごす時間が多くなりますので、今回の校長室だよりは、夏休みを平和に過ごすためのポイントとお願いです。

家族としての役割(子どもにお手伝いをさせましょう)

中学生は**家族の一員として役割**があるべきと考えています。特に夏休みは短時間でもいいので、お手伝いをさせて下さい。家族の一員として働くことは、家族に対する感謝の行動でもあり、これから生きていくために必要な力です。

食器を洗ったり、洗濯物をたたんだり、片付けをしたり、掃除ができるのは当たり前のことです。これから一人暮らしを経験することもあるでしょうし、新しく家族を築くこともあります。そんな時、家事ができるという事は**生活を豊か**にします。

まずは、自分の部屋の掃除、あるいは机の上を整え、ついでに家族のいる部屋の掃除や玄関掃除、窓ふき等を引き受けさせ、生きるためにも料理の一品二品は作らせて下さい。

保護者の皆様にお願い

子ども達の日々の声掛けを**魔法の言葉**に代えてください。

「勉強しなさい」「いい加減にゲームは禁止」「これくらいはやって」等、マイナスの声掛けをしていませんか。それはやる気をなくす**悪魔の言葉**です。

実は言葉一つで、**心は変わる**ものです。心が変われば、**行動が変わります**。

ぜひ、子ども達のやる気を起こす言葉を掛けて下さい。



悪魔の言葉(例)	魔法の言葉(例)
「勉強しなさい。」	⇒「暑い中、勉強もたいへんね。」
「宿題は終わったの。」	⇒「宿題を終わらせると楽しみがあるね。」
「お手伝いしなさい。」	⇒「これをやってみようかと助かるわ。」
「口答えするな。」	⇒「どうしたいの？何がしたいの？」
「あなたには無理。」	⇒「できる方法を考えよう。」
「こんなこともできないの。」	⇒「これからできるようになるね。楽しみ。」
「馬鹿じゃないの。」	⇒「私も同じような失敗をしてきたなあ。」
「なにだらだらしてるの。」	⇒「のんびりした後は集中力も高まるね。」
「これくらい片付けて。」	⇒「片付けができると気持ちもすっきりするね。」

「できるかしら・・・」「無理だわ・・・」「仕事で家にいないから・・・」という声が聞こえてきそうですが、やってみて損はないはず。中学生は思春期で自尊心もあり、親のいうことばかりを聞いてはいません。子どもも一人の人間として扱ってほしいと思っていますので、「～しなさい」という命令形で言われるとカチンときます。また、親が命令形で言葉を発するのは「子供は自分の一部であり、自分が支配できる」という気持ちの表れでもあります。

言葉掛けを工夫し、子どもも親も成長できる夏休みとなることを願っています。

夏こそ、規則正しい生活を

ゲームやYou Tube、スマートフォン等の依存で昼夜逆転の生活になってしまうと、体内時計が狂い、通常の生活が困難になります。家族のルールをもう一度、ご確認願います。



